

東日本婦人部ニ1-2

国 労 東 日 本 婦 人 部
発行責任者 佐々木 久恵
編 集 斎藤 七重



NO.135

発行年月日 2007年 2月 24日

第20回 東日本婦人部定期委員会 IN・ひたちなか

東日本婦人部委員会開催

第二十回東日本婦人部委員会は、一月二十二日茨城県ひたちなか市ホテルニュー白亜紀にて開催されました。約二〇名の組合員が結集し、二〇〇六年の東日本婦人部の運動方針を討議・検討しました。ひたちなか市議の井坂あきら氏を招いて交流をしました。

国労本部加藤婦人部長挨拶

昨年大阪にて婦人部中央委員会を開催し、婦人部の運動方針を決定してきました。東の婦人部の皆さんも多数出席いただき有難うございました。現在の最大の課題は、婦人部の組織問題です。全国的にも一〇〇をきっています。私たちは、組合員の声を大切にし、世話役活動を通じて組織を拡大していかなければなりません。女性の職域拡大とともに健康問題に悩んでいる実態があります。

茨城・ひたちなか市
二十回開催されました！

国鉄闘争は、二〇年目に入り、高齢化が問題になっていきます。納得のいく解決と身分の保証をもとめて、政府に一〇〇のちからと裁判闘争とからめて早期解決を勝ち取らなければなりません。女性闘争団員の二〇名のうち三名は六〇歳を超えています。解決しても職場復帰はできません。

パートの均等待遇法案はほとんどのパートには当てはまらないザル法案だ。正社員と同等と見られる仕事をしているパートがどのくらいいるだろうか。

質疑応答

福島① 2006.3宅配センターがなくなると聞いていたが、担当企業が九〇社もあり売り上げは一日に何億となる日もあった。もともと余剰人員を集めてできた職場だった。六月からビジネス駅ネットが始まった。各個人が自分のパソコンから切符を購入できるようになった。オペレーター

は要らなくなつた。パソコンでは発券できない切符だけ仕事があるだけだ。残る人数は二名。十二月三十日パソコンが撤去された。五〇名は仕事もなく机に座らせられている。

これは、第二の人活だ。文句を言っても本社で決めているから仙台ではわからないと交渉にもならない。十二月十一日やっと交渉ができた。日勤教育をするというが、役にも立たないビジネス駅ネットの教育なんて腹が立つ。

盛岡 駅でMV300の案内業務をしている。十三時間勤務であり、長く疲れるが、調整休があり、出勤日数が減るので通勤に二時間しかかからない。はちょうどよい。始発に乗って出勤、最終で帰る毎日だ。十三時間立ちっぱなしはつらいががんばっている。しかし、最近その長時間勤務のダイヤのことで色々とトラブルもあり、落ち込んでいた。今日も参加するのをやめようと思っていたが、委員会でみんなに話してみてもいいと言われた。休みもちょうど入ったので今日は来て、話をすることにした。

東京① 支社も入ってきては、もう個人の問題ではないので組合にきちんと説明し介入してもらうべきだ。

東京② 分会で黙っているのはおかしい。元々時間通りの勤務は厳しい。

東京③ 十分の休憩がずれたときにはその時点から十分休ませてもらうことを明確にすべきだ。客を相手の仕事だから多少のずれは生ずるものだ。あなたは国労だから狙われたのだと考える。

長野 長野駅事業事務室は四人います。四号店を二人でやっている。9:50出勤で18:20までの勤務だ。十二時から十三時の休憩を取るため十二時五〇分には鍵を閉めて内勤の金庫に金を預ける。十二時かきりに休憩に入りますと助役に宣言して休憩する。十二時になったら鍵を受け取り店を開ける。助役がいようがいまいがきちんと宣言して休憩を取る。駅的女子社員と同じロッカーを使うことになってから、彼女たちに時間時間で帰ることに對して労働者の鑑といわれた。彼女たちは、優良企業にふさわしい服装をしろといわれている。

郡山 出札に七人、改札に五人新卒がやってきた。まるで学校の食堂がやってきたみたいなき感じだ。スーツ姿で。私は月二・三回の夜勤をやっている。若い子達に怖いこともあったでしよう?と聞くが、無いと言う。私なんか酔っ払いがいただけで怖いのに。カメラがあるから大丈夫というが、異常に気がついて助けがやってきたときには手遅れだなんて考えないのだろうか?

助役に車掌試験を受けさせられ合格したが、なりたくないという状態になってしまった子がいる。現在休職している。

仙台 駅控えとお客様控えを間違えて渡してしまう事件が相次いだため、マニュアルができ、渡す前に赤丸をつけるとか渡した後、印を押すとか面倒な手続きができた。しかしその後でも渡してしまふことがあり、部署長がチェックし赤丸が無いから自由書を書けという攻撃がある。クレシット控えがないとクレシットを使つたという証拠が残らないので大変なのだ。

井坂あきら氏交流会

井坂氏挨拶 (抜粋)

ひたちなか市は、農業・工業・水産業の町です。農業は、冬は乾燥芋で有名です。水産業はひたちなか港があり、横浜港で受け入れきれない水産物を受け入れる計画で整備が進んでいます。このプロジェクトで、海水浴場の阿字ヶ浦海岸がなくなってしまった。海流が変わって海水浴場の砂が流されてしまった。工業では、小松電気や日立建機などの企業が工業団地に誘致されこれからは発展が予想される。

私は42年に日立工機に入社し、50年に首切り合理化で解雇され、労働委員会で解雇撤回を闘ってきた。平成8年和解したが職場復帰はできませんでした。なぜ首切りにあったかという、就職して2年目にボーナスを5%カットされた。班長に文句を言ったら、残業がたりないからだという。他の人は60時間やっているがおれは30時間だ。工場長に文句を言うと文句を言うこと自体が問題だと次のボーナスもカットされた。それで残業を45時間までがんばってやったが、過労で倒れてしまった。査定が悪いから基本給も悪い。組合活動に走った。高度成長時代で、会社は組合の分裂をかけてきた。500人くらい残ったが圧倒的に第二組合が多い。1年前に県労連が仲介で統一した、そのころの第1組合の仲間が差別を受けながらがんばっているが、根っこは国鉄やJRと同じだ。他の日東タイヤや沖電気・三菱電機などの闘争団と交流しながらがんばってきた。

これからも国鉄闘争の理解を広げるためにともに頑張っていきたい。